



オリンピック麻生太郎氏の ゴルフに対する真摯な姿

本誌主幹

大 中 吉 一

麻生太郎氏との 出会いと思い出

コロナウイルスの影響でゴルフどころではないというのも事実ですが、なかなかコースに出られない中、麻生太郎氏と私との交悠録をお話しようと思います。

ご存知のとおり、麻生氏は福岡県出身で、学習院大学を卒業後、海外生活を経て1966年に実家の家業であった株式会社麻生（麻生産業）に入社し、1970年からは2年間、在員としてシエラレオネでダイヤモンド採掘業に従事していました。ところが内戦勃発で帰国、1973年には、麻生セメント（現・株式会社麻生）の代表取締役社長に就任しました。また1976年にはモントリオールオリンピックにはクレー射撃の日本代表選手として出場し、41位という成績も残しています。

1978年、37歳の時に社団法人日本青年会議所（JYC）の会頭に就任した際に私は初めて麻生太郎氏にインタビューをしました。

その時に私が

「JYC会頭というのは、その後に家業

を継ぐ道を選ぶか、政治家を目指すかのどちらですが、どちらにするのか」とお聞きすると

「私は吉田茂を目指したい」

と即答しました。祖父である吉田茂を目指すということは、つまり政治家です。彼の父上である麻生大賀吉も衆議院議員でした。

その後、1979年に第35回衆議院議員総選挙に旧福岡2区（現・福岡8区）から出馬し初当選。政界入りを果たし、1982年には自民党青年局長に就任しました。

その頃に結婚したのですが、1983年の第37回衆議院議員総選挙で3期目の当選を目指しましたが、ロッキード事件の田中判決の余波で一歩及ばず苦杯を舐め、結婚したばかりの奥様は「代議士の妻になった翌日に無職になった」と私に話してくれました。

1986年の第38回衆議院議員総選挙でトップ当選を果たし、国政に復帰しましたが、今度は奥さんと手を携えての国会入りです。その時に当時の幹事長であった二階堂進氏が彼に言った



麻生太郎氏

のは、

「これからは党の仕事をやってもらわなければならぬ。ついては党内だけでなく野党とも付き合っていかなければならない。ついては麻雀かゴルフのどちらかを嗜んで欲しい。」

ということでした。

彼は、父親を見ていて麻雀は賭け事で好きになれない。それならゴルフを選びたいということで、ゴルフを始めることになったのです。

そこで彼は、故郷の麻生飯塚カントリ倶楽部のアシスタントプロである藤井義将氏に

「初ラウンドで50を切りたい」と申し出たのです。すると

「麻生君、ゴルフを舐めてはいけません。私の言うことが聞けるならきちんとお教えしましょう。もしそれを実現したいなら、2万発打つまでコースに出てはいけません」

と藤井プロがおっしゃったそうです。2万発ということとは、1日に1000発打つても200日掛かる計算です。彼はさすがに元オリンピック。藤井プロの言う通りに、しかも4ヶ月で2万発を完遂したといえます。そして初ラウンドでは見事に、前半が50打、後半は49打という成績だったそうです。

それから私との交悠録がスタートしました。多い年は年間8回くらいでした。小金井カントリ倶楽部で、彼と彼の友人のプロ、そして私がゲストを1人お連れするのが恒例でした。

いつも感心するのは、麻生氏はゴルフ場にスタートの2時間前には到着し、練習場でアシスタントプロをつけてドライバーからアプローチ、そしてパッティングまでを実に真剣に練習します。そしてスタート40分前にはクラブハウスに来て、私たちと合流するのです。これは素晴らしい熱心な方法で、読者のみなさんも同じように実践すればハンディは3〜4上がることでしよう。

名門コースで

2打目がカップイン

いつぞや麻生氏と旧軽井沢ゴルフ倶楽部に参りました。

旧軽井沢ゴルフ倶楽部は、明治19（1886）年に英国人宣教師アレキサンダー・C・シヨールによって開かれたリゾート地、軽井沢に、別荘オーナーたちの声に心惹かれて日本で5番目に古いゴルフ場として大正8（1919）年に誕生した由緒あるゴルフ場です。その3番ショートホールのティーショットで私が7番ウッドでひどいテンプレを打ち、40ヤードほどしか飛ばず、残り130ヤードほどを7番アイアンで打ちましたが、ボールはピンめがけてまっすぐに飛び、メンバーでコースに詳しい麻生氏は

いました。

私は長い間ホールインワンを目指していますが、セカンドショットでホールインはこの時が初めてでした。これからはホールインワンを目指したいと思えます。

そういえば、プロアマのトーナメントに出たときに、あるプロから、年間何回ゴルフ場に行くかを尋ねられ、120回ほどとお答えしたら、その1割だけで良いから練習場に行けばもっとスコアもハンディキャップも上がるとアドバイスされたことがあります。私はその方に

「ハンディキャップを上げて何枚もチョコレートをしたくより、楽しくプレーをしてひとりでも多くの方にチョコレートを差し上げ、喜んでいる姿を拝見する方が嬉しい」と申し上げました。

「大中小、絶対入っているよ」とおっしゃいます。見事にホールインして

昨年から今年にかけて、私自身の病気やコロナウイルスのせい、年間38回とゴルフ場に行く回数は減りましたが、これまでゴルフを多くの方と一緒にさせていた私には交悠録という宝物があります。これからも楽しいゴルフ談義をお話させていただきます。ぜひご参考になさってください。



旧軽井沢ゴルフ倶楽部

「大中小、絶対入っているよ」とおっしゃいます。見事にホールインして